



資料 7 - 1

高知県総合教育会議

(高知市立城東中学校)

平成28年9月23日
説明用資料



学校教育目標

心豊かでたくましく、生きる力を身につけた生徒の育成

徳 体 知 (知・徳・体の調和)

◎目指す生徒像

- ・自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動できる生徒
- ・豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒
- ・互いに個性を尊重し、認め合い高め合える生徒

生徒数 328人 学級数 12学級 (特別支援学級 2学級を含む)



本校の課題

校区小学校からの進学率が低い！

現状を受け入れた中での取組

生徒総数328名

平成24年度 46.5% (高2) 平成25年度 52.9% (高1) 平成26年度 44.5% (中3) 平成27年度 49.3% (中2) 平成28年度 40.1% (中1)

× → 学力上位層が少ない中での学力向上対策が必須

- ① 生徒個々に対応した授業力の向上が必須
- ② 生徒の学習習慣の定着 (家庭に望む前に学校としていかに支援するか)
- ③ 学びからの逃走との戦い (生徒との協働でエスケープゼロ実現!!)



× → リーダー的存在の減少による新たな集団力学の構築の必要性

- ④ 良好な人間関係づくりや集団づくりへの支援 (学級経営の重視)
- ⑤ 学校以外の原因の不登校生徒に対する対応 (毎週開かれる不登校対策委員会による組織的対応)

学校経営の方向性

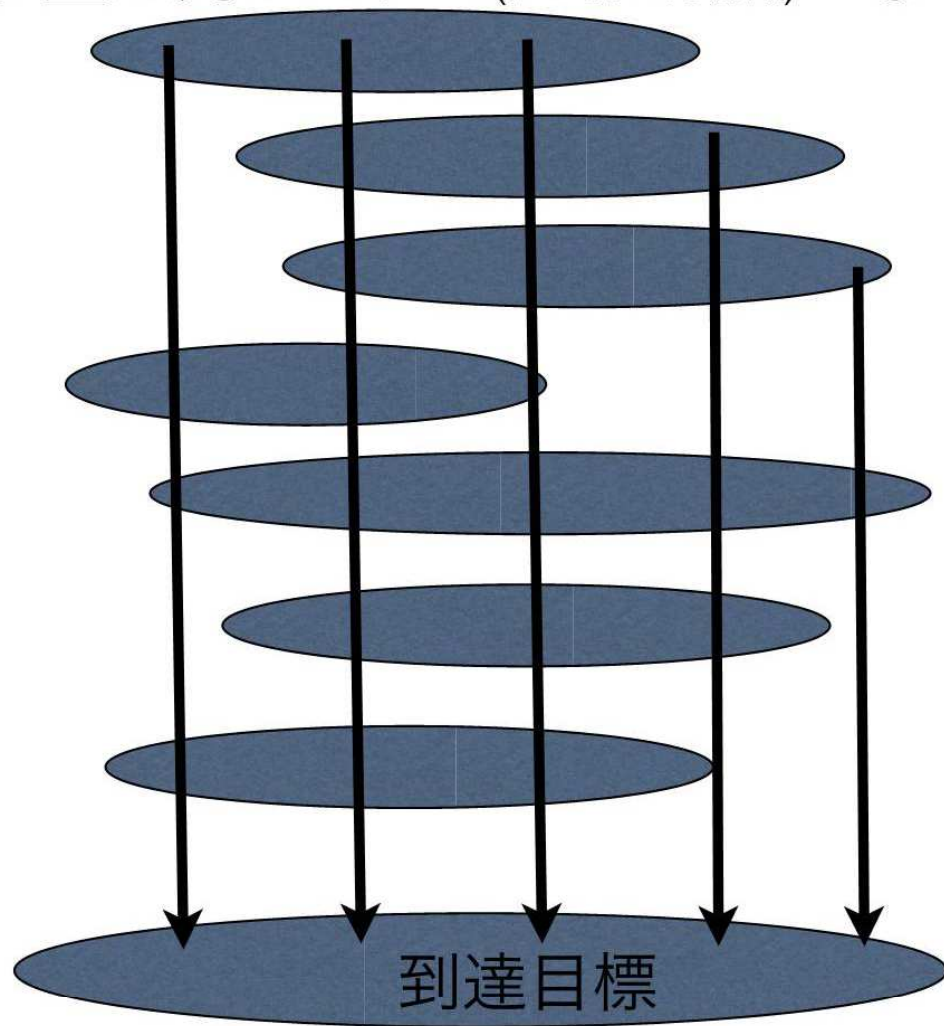
1. 昨年度は、今までの方法を踏襲しながらブラッシュアップをしてきた。本年度も本筋ではその延長とする。
2. 可能な限りの情報の開示による情報共有→→→同じ土俵に立っての判断→→→全体像を理解した教員の増加
3. システムとは専門化の集合体ではない、オールラウンドの力が重なり合っはじめて共に痛みや喜びを分かち合えるシステムとなる。その形の一つがタテ持ち的協働（別紙図で説明）
4. 評価とは、客観性のない数値で表せるものではない。安心して、縁の下の力持ちに徹することのできる関係性のある職人集団を支えるのが正しい評価である。この互いの信頼関係こそが、本当の意味の自己肯定感を生みそれは生徒の心にも映る。（プロはプロ同士の渋い仕事を読み合える。）
5. 教師の最も大切な仕事は授業である。その専門性を高め、教科で人生が語れる教師を目指して欲しい。
6. 最初から諦めず、まずはやれることを繰り返してやってみる。このしんどさは、事後処理に終われるしんどさよりましで、教育者としての尊厳を守るための第一歩の値打ちのあるしんどさかなと。
7. 量から質へ 多くの目的不明の取組よりも、総意の元に絞り込んで一点集中で質の高い取組を。
8. Howからwhyへ（7.を含めて、学力向上について図にて説明）
9. 不登校対応の強化 不登校対策委員会(学年主任の参加義務づけ)・不登校対応コーディネーター
10. 無事これ名馬なり・・・馬にたとえてごめんなさいですが、とにかく健康で最後まで走りきることは大切なことかと。

※「何をしたか」ではなく「結果として、どんな力をつけたか」を重視する取組

分業・専門化システム ×



多重並列システム(タテ持ち的協働) ◎



高知市立城東中学校 校内研修体制（平成28年度改訂）

＜研究主題＞
学ぶ意欲を高め、自立する生徒の育成
 ～生徒それぞれが自己新記録をめざし、たがいの頑張りを認めあえる集団の育成～

学習習慣づくり部

仮説
 学習習慣の定着は、自ら学ぶ力を高め、積極的に授業に参加する生徒を育てるであろう。また、パワーアップ教室での取組は、学習を媒体とした生徒の居場所づくりとして機能するであろう。

具体的な取り組み

- 学習習慣の実態把握
 - 家庭学習アンケートの実施・分析（年5回）
 - 家庭学習の確保（1年生80分、2年生90分、3年生100分以上）
 - 高知市中学校学習習慣確立プログラム（パワーアップシート等）
 - 宿題（各教科）
 - 家庭学習ノート（連絡帳「今日の学習」等）
 - 全校一斉テスト「国・社・数・理・英」（火曜日）年間12回実施
 - 春休みの宿題作成
 - 夕自習の取り組み
 - パワーアップシート等答え合わせ、教え合い
 - 基礎的・基本的事項の定着
 - 加力指導（パワーアップ教室等）年間のべ5,000人以上参加
 - 放課後
 - 長期休業中・・・毎日午前午後2回各2時間実施
 ※ 学年による夏休み補習（5日間）
- * 支援員との連携（パワーアップシートの進捗確認）
 （全校一斉テスト作成・採点）など

授業づくり部

仮説
 一人一人の学習状況を把握し、個に応じた指導やグループ活動を取り入れた授業を行うとともに、知的好奇心と有能さへの欲求を活性化させれば、自ら学ぶ意欲が高まるだろう。

具体的な取り組み

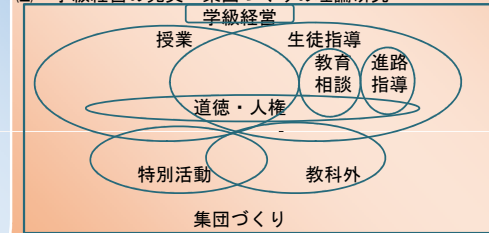
- 生徒の実態把握
 - 到達度把握調査の実施・分析
 - 全国学力・学習状況調査の実施・分析
 - 定期試験等諸調査の実施・分析
 - 授業技術の向上
 - 公開授業・研究授業の企画・運営
 - 授業づくりのスタンダード
- 1 全教科で、授業の「めあて」を明確に示す。
アクティブ・ラーニングを目指した探究的な「めあて・課題」の提示
- 実物教材や半具体物を提示する。
 - 小集団学習（学習班）における学習の場を設定する。
 - 授業の振り返りに取り組み、授業改善を図る。
 - 授業評価システムの活用
- ④ **数学・国語でのタテ持ち授業の実施と教科部会の定例化**
- 個に応じた指導の研究
 - 単元構成の工夫
 - 教員や図書・ICTの効果的な活用
 - 数学での2年・3年での習熟度別分割授業完全実施
 - グループ活動
 - 生徒同士の関わり、互いの成果を認め合う関係づくり
 - 言語活動の充実（特に聴く力・読み取る力の強化）
 - 生徒指導の3機能（自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育成する）の推進

学習集団づくり部

仮説
 生徒の居場所のある学校づくりは、生徒の心の安定と共に学び合い、高め合い、磨き合う学習集団を形成するであろう。そのことは結果として学力の向上にもつながっていくだろう。

具体的な取り組み

- 人間関係づくり（人的環境の向上）
 - 「Q-U」の実施・分析と対策
 - 「あったかアンケート」の実施・分析と対策
 - 「高知あったかプログラム」の実践
- 学級経営の充実・集団づくりの理論研究



- 生徒会活動の活性化
 - ・ ボランティア活動・教室整備（物的環境の向上）

地域連携づくり部

（地域学校協働本部）

仮説
 学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、こどもの教育に協働することによって、大切にされている自分を感じ、心豊かで、学ぶことの楽しさを共有できる生徒を育成できるだろう。

具体的な取り組み

- 月一回の校内清掃活動
 （主に城東33グループ）。生徒達との合同での清掃活動は年間2回
- 月一回程度の「挨拶運動」
 （生徒会・管理職・生徒指導・地区補導員・城東33グループ・生徒会担当教員等）
- 地域のゲスト・ティーチャーによるキャリア教育授業の実施
- 放課後加力教室への支援

メンバー：管理職、主幹教諭、生徒指導主事、地域学校協働コーディネーター（城東33グループ代表）
 城東33グループ、生徒会 ほか

メンバー：国語、社会、数学、理科、英語科教員、
学力向上支援員・中学校放課後等学習支援員

ほか

メンバー：国語、数学、英語科教員・管理職・**主幹教諭[タテ持ち]**・
 学力向上・**探究的な授業づくり担当**

ほか

メンバー：生徒会担当、特別支援コーディネーター、不登校対応コーディネーター、生徒指導主事、S S W、S C、道徳・人権・特別活動の各代表 ほか

城東中学校の特徴的な取組み

1. ほぼ年中無休の加力教室 **(パワーアップ教室) 年間207日実施** 本年度は年間のべ参加者数6,000人を目指す。

2. **各指定事業の効果的連動**による学校運営 (指定をどうこなすかではなく、子どものためにどうやって最大効果を上げるか)

・中学校学力向上実践モデル校(担当 平川研究主任)

(教科部会・学年・研推・管理職・教育委員会を授業づくりの当事者として巻き込む取組み。「**授業づくりのプロセスから学ぶ取組み**」)

・学校組織力向上のための実践研究
(システム改善) 担当(土居主幹教諭)

・探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型)
(アクティブラーニングに向けての質的改善) 担当(岡本教諭)

3. **2年・3年全授業・習熟度別分割授業、1年生全授業・ITの実施** (中途半端な取組みは効果は半減する)

単に分割すればいいのではなく、**分かる喜びを共有できる集団づくり**があってこそその取組み

4. 図書館の充実。平成10年度より朝読書を継続中。計画的な図書館を活用した授業実践。
(平成28年度 **子どもの読書活動実践優秀校**として文部科学大臣賞を受賞)

5. 2年生3学期に「**立志式**」が実施されている。(キャリア教育・道徳、人権教育・言語活動等の総合的要素がある取組み)

6. 本年度より、図書館利用に加えてICT教育の強化。また、城東33グループとのさらなる協働をめざす。

1. ほぼ年中無休の加力教室 (パワーアップ教室) 年間200日以上実施

① 学力向上支援員、中学校放課後学び場等支援員の教育者としてのやり甲斐を大切にする。

② 原則毎日・教員のローテーション化・教科担当による課題

- ・H28年度実施予定日数 207日 5月17日～3月24日
- ・夏休み 29日 冬休み 6日実施 午前・午後各2時間実施
- ・別途補習 夏休みに5日 (補習のみ強制) 夏休み参加教員延べ60人

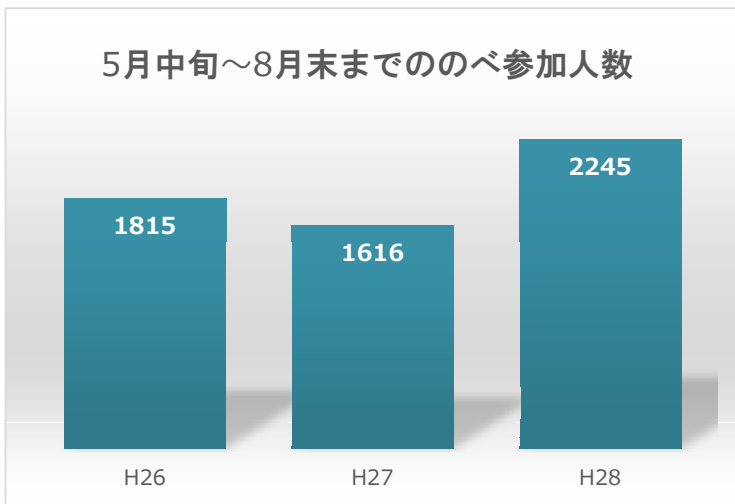
③ 復習の重要視 (学力との相関)

45.7% (H25) → 55.9% (H26) → 58.4% (H27) → 63.3% (H28 自校独自アンケート集計)

④ 学び場としての居場所づくり。年間参加延べ人数 **6,000人** を目標にする。

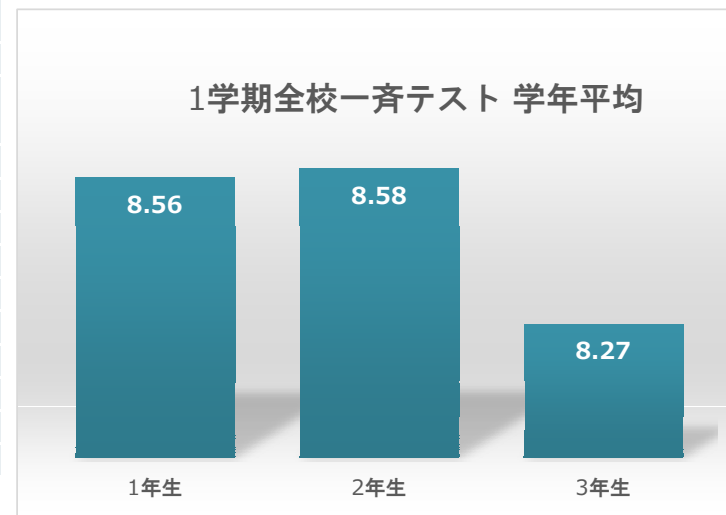
⑤ 学級・学年・男女・個人別のデータ処理にチャレンジ中

日	金	木	水	火	月	日
	恒石	馬詰	中内	山崎	宮地	金松
						成岡
						今城
	森	大西	岡本	久保	神原	能津
						松岡
						森山
						土居
	平川	土居	池上	原	竹村	竹田
						竹下
						秋森
						奥本



	第1回 (国語)	第2回 (国語)	第3回 (国語)	第4回 (数学)	平均
1-1	9.3	9.0	9.0	8.1	8.9
1-2	9.2	9.4	9.0	8.5	9.0
1-3	8.5	9.1	8.6	7.7	8.5
1-4	8.0	8.8	7.7	7.0	7.9
2-1	8.2	8.8	7.9	8.1	8.3
2-2	8.9	8.9	9.1	9.1	9.0
2-3	7.5	8.9	8.7	8.8	8.5
3-1	8.1	8.0	7.1	8.5	7.9
3-2	8.2	8.7	7.6	8.9	8.4
3-3	8.6	8.8	7.8	8.9	8.5

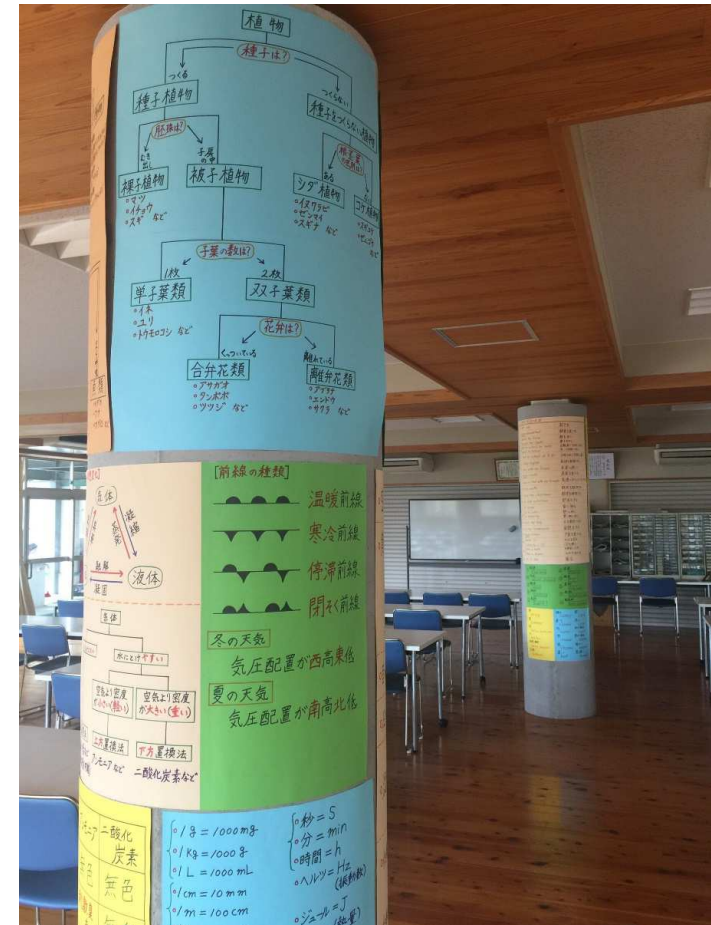
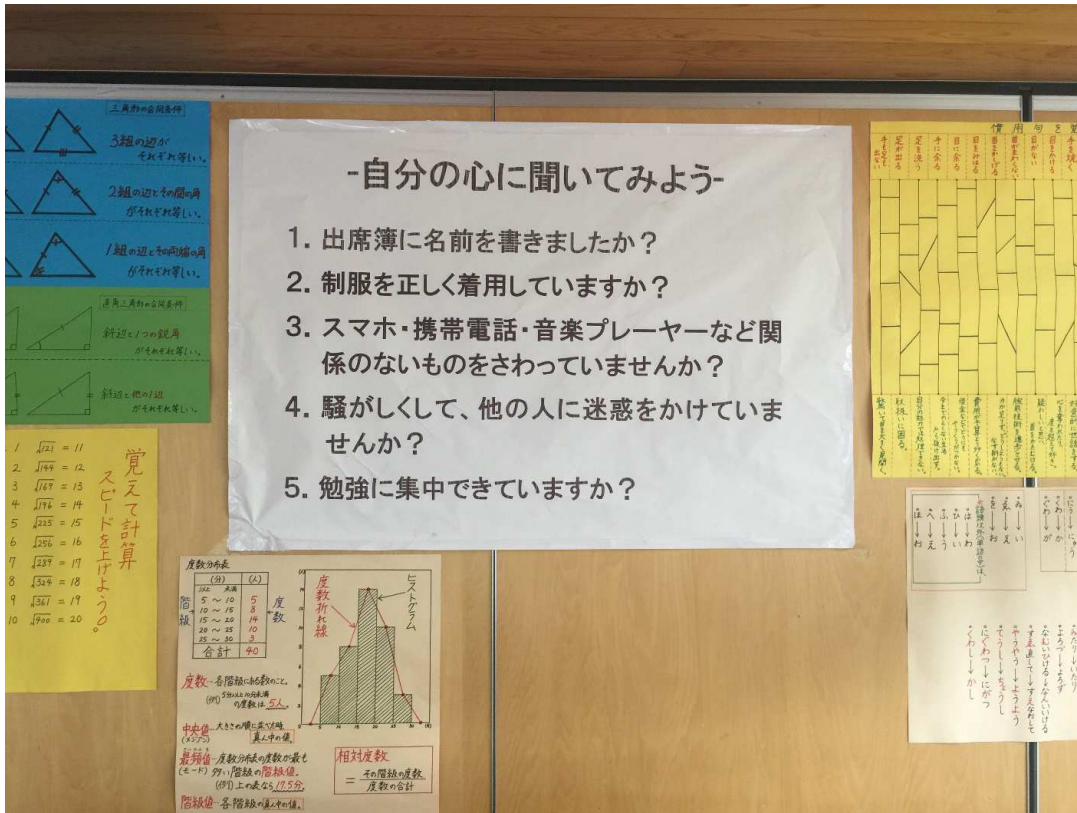
学習委員会主催で年間12回実施



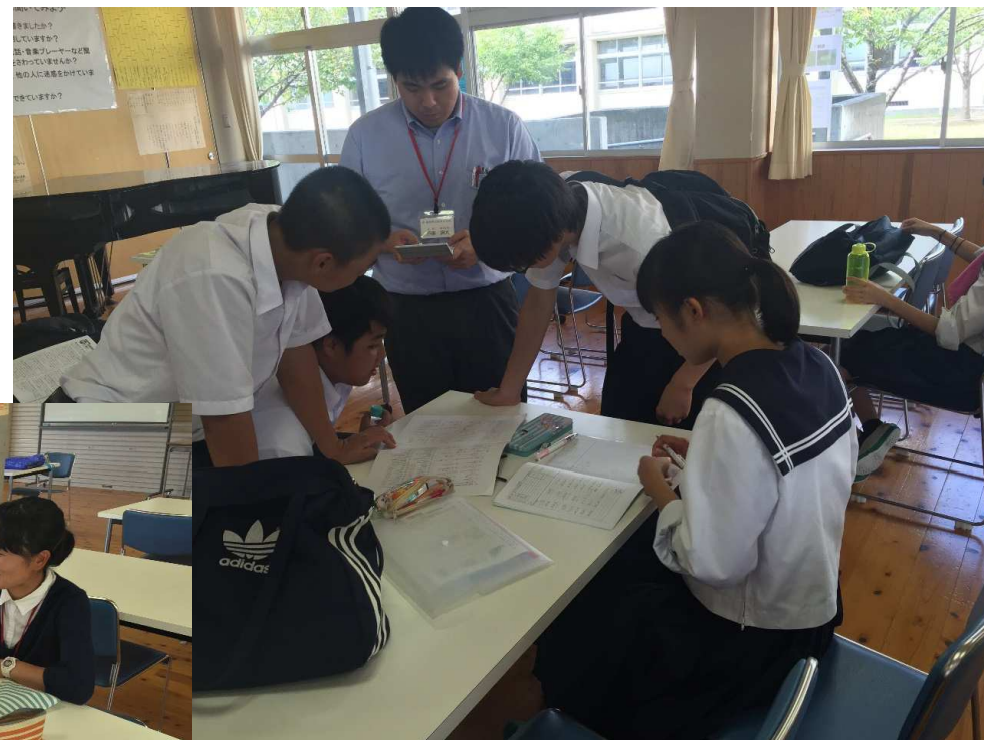
☆放課後の加力(パワーアップ教室)による効果

- ・放課後や長期休業中の学びを媒体としての生徒の居場所として、パワーアップ教室は、城東中では確固たる市民権を得ている。その結果としてここ数年は年間5,000人前後の延べ参加者数となっている。(本年度は6,000人以上を目標としている)
- ・補習(7時間目)としてではなく、あくまで生徒の自主性によって参加体制は取られているが、学年や教科の意図的な声かけ等によって、低学力層のかなりを誘えている。6月の市の調査でも1年生の家庭学習を全くしない生徒がゼロとなっていることから間接的に類推できる。
- ・タテ持ち的協働による効果からも、全学年に対応できる教員が増え、教員自体のやり甲斐感からか、例年と比べると教員の参加率が大きく上がっている。このことは、さらに生徒の参加率を上げる結果となっている。(夏休み教員参加延べ60人、支援員は除く)
- ・支援員のやり甲斐感があり、能動的な運営ができています。

☆ パワーアップ教室の様子



☆ パワーアップ教室の様子



家庭学習に関するアンケートの集計表①（平成28年6月実施）

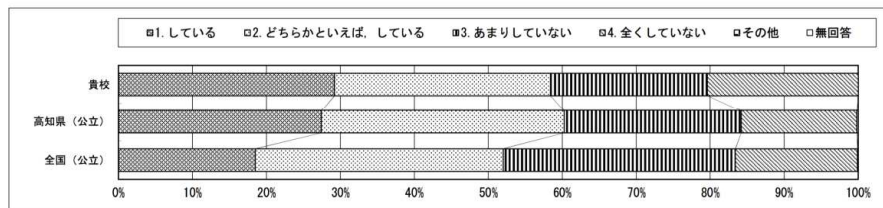
高知市立 城東中 学校

質問	質問内容	区分	学年	調査	3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分未満	全くしない	無回答 その他
質問1	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾・家庭教	高知市	中1	H28.6	10.6	21.1	34.5	21.1	10.4	2.1	
				H28.6	7.3	25.0	33.3	27.1	7.3	0.0	
		城東中	中2	H28.6	8.2	20.6	31.3	21.6	13.6	4.7	
				H28.6	6.6	26.4	26.4	25.5	11.3	3.8	

平成27年度全国学力・学習状況調査より

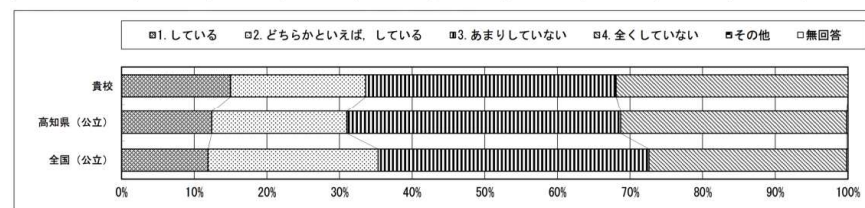
平成27年度全国学力・学習状況調査より

質問番号	質問事項									
(23)	家で、学校の授業の復習をしていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	29.2	29.2	21.2	20.4					0.0	0.0
高知県（公立）	27.4	32.8	23.9	15.6					0.0	0.2
全国（公立）	18.5	33.5	31.4	16.5					0.0	0.1



本校において「復習をしている」と回答した肯定群の推移
 45.7% (H25) → 55.9% (H26) → 58.4% (H27) → 63.3% (H28) ※H28は自校独自アンケートによる

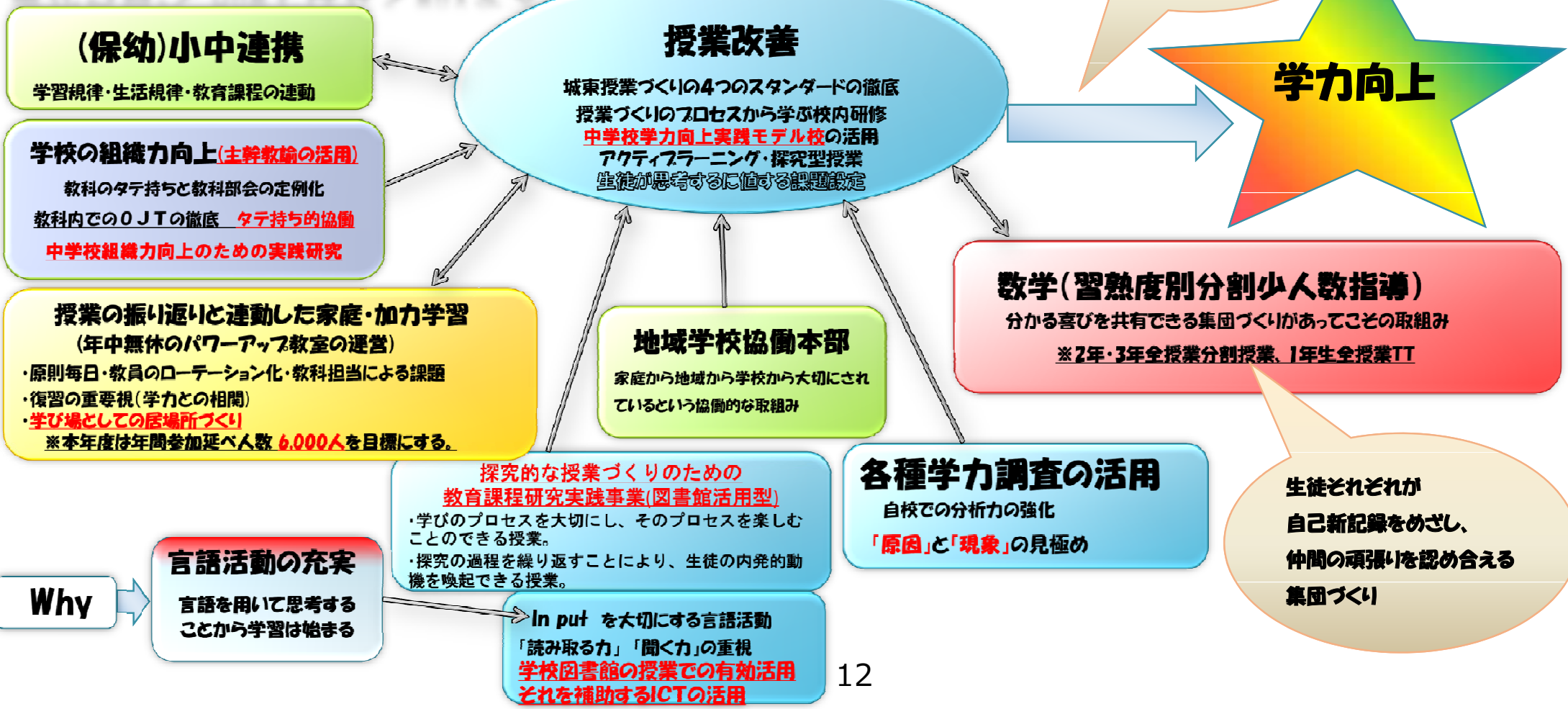
質問番号	質問事項									
(22)	家で、学校の授業の予習をしていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	15.0	18.6	34.5	31.9					0.0	0.0
高知県（公立）	12.4	18.6	37.7	31.1					0.0	0.2
全国（公立）	11.9	23.4	37.3	27.2					0.0	0.2



本校において「予習をしている」と回答した肯定群の推移
 31.6% (H26) → 33.6% (H27) → 38.8% (H28) ※H28は自校独自アンケートによる

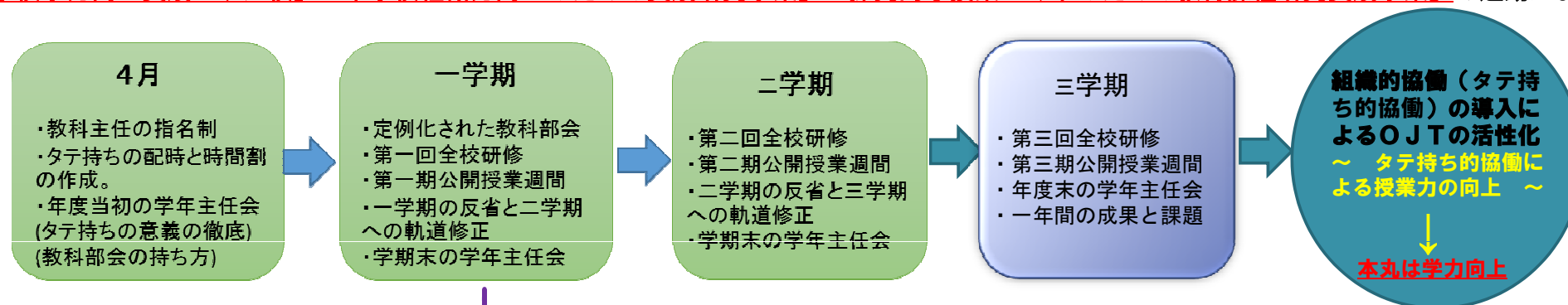
2. 各指定事業の効果的連動による学校運営

量から質へ, HowではなくWhyを大切に



2-① 有効な教科会運営を定着させるための具体的取組

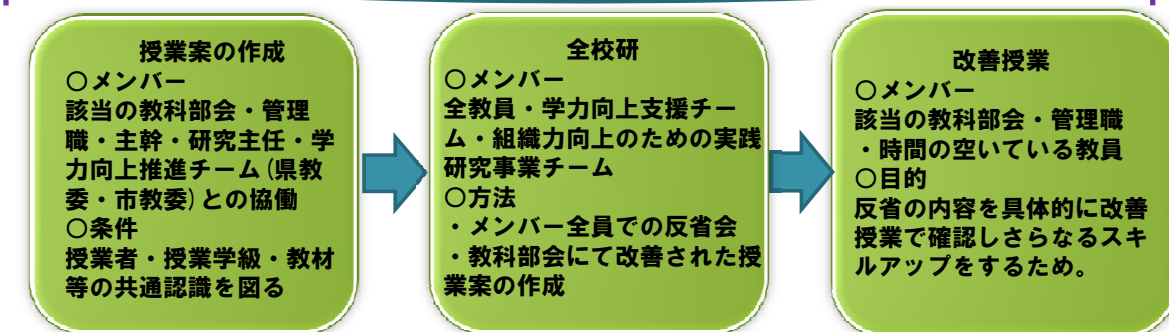
「中学校学力向上実践モデル校」「中学校組織力向上のための実践研究事業」「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業」の連動による授業研



★5教科授業研のワンサイクル

教科による協働のためのトレーニング

組織的協働による授業づくりのプロセスから学ぶ授業研究



教科部会



全校研反省会

- ※ **授業参観シート**を探究型のシートを城東風に作り直した。
- ※ アクティブ・ラーニングを目指した探究的な「めあて・課題」の提示を意識する。

※ この取組みを、国・数・英の三教科行う。社・理は全校研というスタイルはとらないが、それ以外は同じサイクルで実施する。この取組みにより、教科会を活性化し、日頃の取組みへの流れを作る呼び水とする。また、その流れを主導するのは**主幹教諭**である。

☆ タテ持ち的協働の実施による効果

・教科担任ごとの指導方法や授業の質のばらつきの改善

① 若年教員へのOJTと共に、中堅以上の教員の意識改革

・学校全体でのまとまりの改善 (チーム学校としての効果) (城東家)

① パワーアップ教室での対応の変化 (教員の参加率は倍増!!)

② 学年を超えての授業や生徒の話が職員室でよく聞かれるようになった

③ OJT的な校内研修での教員間の関わりの活性化

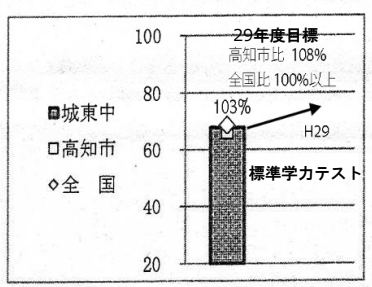
④ 学校を組織する一員としての当事者意識が徐々に広がっている。(特に主幹教諭を中心としたミドルリーダーの成長)

⑤ 主幹教諭が本校在籍教諭であったため、職員の中にスムーズに入り込むことができた。タテ持ち的協働が有効に機能するためにも主幹教諭のミドルリーダーとしての機能は非常に大切である。

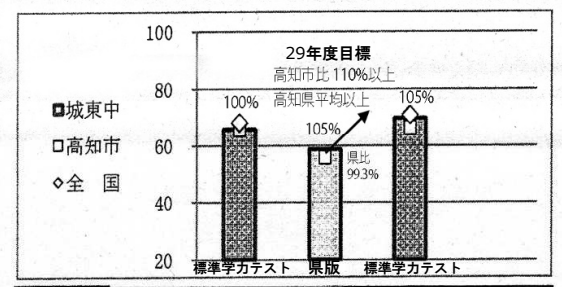


☆ 学力向上に向けての数値的データ

国語

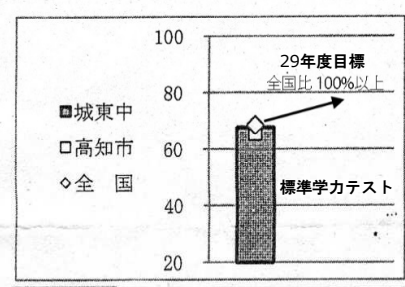


現中1 国語	正答率と 全国比	平均正答率			
		平成28年度			
		中1・4月実施 到達度把握調査	中1・1月実施 学力定着状況調査	中2・4月実施 到達度把握調査	中2・1月実施 学力定着状況調査
城東中	正答率(%) 全国比	67.9 99	—	—	—
高知市	正答率(%) 全国比	66.0 96	—	—	—
全国	正答率(%)	68.7	—	—	—

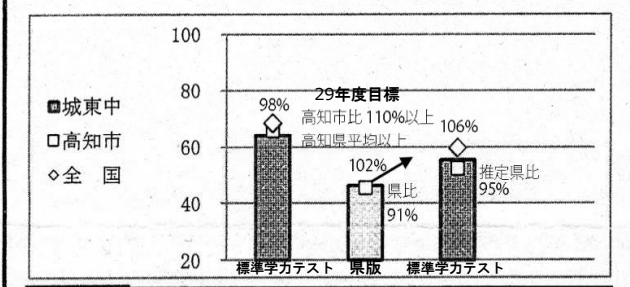


現中2 国語	正答率と 全国比	平均正答率			
		平成27年度			
		中1・4月実施 到達度把握調査	中1・1月実施 学力定着状況調査	中2・4月実施 到達度把握調査	中2・1月実施 学力定着状況調査
城東中	正答率(%) 全国比	65.8 97	58.6 —	69.7 98	—
高知市	正答率(%) 全国比	65.7 96	55.8 —	66.3 94	—
全国	正答率(%)	68.1	—	70.9	—

数学



現中1 数学	正答率と 全国比	平均正答率	
		平成28年度	
		中1・4月実施 到達度把握調査	中1・1月実施 学力定着状況調査
城東中	正答率(%) 全国比	67.7 99	—
高知市	正答率(%) 全国比	65.5 95	—
全国	正答率(%)	68.6	—



現中2 数学	正答率と 全国比	平均正答率			
		平成27年度			
		中1・4月実施 到達度把握調査	中1・1月実施 学力定着状況調査	中2・4月実施 到達度把握調査	中2・1月実施 学力定着状況調査
城東中	正答率(%) 全国比	64.0 94	46.1 —	55.4 93	—
高知市	正答率(%) 全国比	65.6 96	45.4 —	52.3 88	—
全国	正答率(%)	68.4	—	59.6	—

高知県学力定着度調査 (2016年1月)

現2年社会 高知市比 119% 県比 107%
 現2年理科 高知市比 113% 県比 103%
 現2年英語 高知市比 95% 県比 90%

標準学力テスト(到達度把握調査) (2016年4月)

現1年理科 高知市比 100% 全国比 92%
 現2年英語 高知市比 94% 全国比 79%
 現2年理科 高知市比 100% 全国比 93%

4. 図書館教育の充実。 子どもの読書活動実践優秀校 (文部科学大臣賞を受賞)



4月23日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて、城東中学校が「子どもの読書活動実践優秀校」として文部科学大臣賞を受賞しました。全国の受賞校、小学校:73校、中学校:30校、高等学校:33校、特別支援学校:5校 合計:141校の中で代表二校に選ばれました。パネル展示、実践発表等を代表で行い、壇上で代表二校がヤンキー先生こと義家 弘介 文部科学副大臣から直接賞状を受け取りました。

本校の場合、特別派手な取り組みはありませんが、長い年月をかけ読書活動の定着に努力してきたことが花開いた結果であると思います。授業でもほとんどの先生が、図書館を利用した授業を行っていること、城東33グループが長きにわたり多くの本を寄付してくれたことも評価の対象になったと思います。

5. 2年生3学期に「**立志式**」が実施される。

(キャリア教育・道徳、人権教育・言語活動等の総合的要素がある取組み)



6. 本校専属ボランティアグループ 城東33グループの活動(地域学校協働本部)



城東33グループによる年間10回以上の校内清掃活動と各学期全クラスでの授業参観



※ 生徒との挨拶運動も実施している。本年度より加力学習へ参加予定

☆ まとめ

◎放課後加力学習について

- 支援員さんは、共に生徒に関わる仲間である。一緒に動けば効果は倍増する助っ人である。
- もう一つは次に述べるタテ持ち的協働の効果との相乗効果であるとも言える。
- 加力教室は単なる授業の延長ではない。放課後の学習を媒体とした生徒の居場所なのである。
結果としてそのスタンスの方が学力向上に効果を発すると考える。

☆ まとめ

◎タテ持ち授業について

- タテ持ち授業が協働のスタートとなると考える。これは、授業のみならず、学校運営の多くの領域を共有し、教職員が当事者意識を持って機能するためには大切な発想である。
- この発想の根底にあるのは、本校の生徒全員を、本校の教職員全員で支援するということである。
- この学校運営を具体的に機能させるためには、主幹教諭のような加配の配置は必須である。